

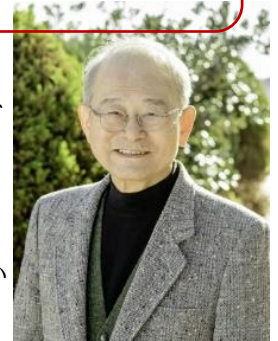
たくさんの喜びと笑顔を親とともにした子どもは、人の悲しみを知り、誰とでも喜びや悲しみを分かち合える人になる。

児童精神科医・故佐々木正美氏

前回に続いて、故佐々木正美氏の著作から内容を抜粋して紹介します。参考になれば幸いです。

9. 「もう赤ちゃんじゃないんだから」はタブー。

- 家でいい子、園で乱暴者は「親が怖いという思いの反動」であり、家でのストレス(いい子を演じる)の発散を園でしているだけのこと。
- 乳幼児期の問題は、成長過程で消えにくい。大きな影響を与えている。
- 保育士は、子どもが安心して赤ちゃんがえりができるようにしてあげること。(ただし、危ないことをしたら止めること)このことを続けると乱暴がへっていく。
- 赤ちゃんがえりで幼い要求を保育士に求めたり、弱い子に乱暴したりする状況は「依存と反抗」の関係(子どもは依存と反抗を繰り返しながら自立していく)。



佐々木正美氏

10. 乳幼児期の「泣かせっぱなし」の時間は短い方がよい

- 保育園は家庭の延長線上ではなく「子ども社会」。
- 「家で悪い子、園でよい子」は全く心配いらない。大人も同じ。家庭はくつろげる場所・・・。
- 泣かせっぱなしは「泣いて呼んでもだれも来てくれない」感情が残ってしまう。

11. 黙って好きなものを出すよりも「何が食べたい?」と希望を聞くこと

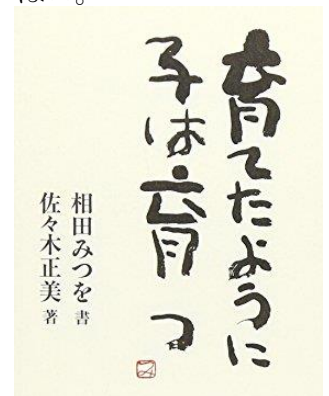
- 上記の方が子どもは喜ぶ。
- 子どもに問題が起きてても、対応に遅すぎたということはない。気づいたら始めればよい。中学年でも添い寝してあげればよい。

12. 問い詰めずに、子どもに話させること

- 子どもの気になる言動に対して「何が嫌なの?」「どうして〇〇したの?」は×。
子どもは何が原因でそうしたのかさえ、分かっていないことが多い。
- 子どもが応えやすいように選択肢を示す(この中のどれが食べたい?)
- とにかく子どもの話にひたすら耳を傾ける姿勢を持つ。

13. 親が9割手伝って、子どもが1割できればほめること

- 例 片付けは親が9割やってあげ、最後の1割を子どもができた褒めましょう
- 叱ることは簡単。「待つことが難しい」
- 叱る叩くでは、子どもの「自立心」は育たない。
- 何度も言って聞かせ、子どもができた時に褒めることで自立心は育つ。
- こんな子どもになってほしいという親の願いを小さく、子どもが喜ぶ親になろうを大きく。



14. 子どもをありのままに認める

- 必ずある子どものよい面を発見する努力を怠らないこと。
- 人の長所短所は背中合わせ。
- 子どもを育てる人(教師、親)は、善意に長所側から見ること。
- 自分の価値や良い面を知ってくれている人からの注意は、自尊心も傷つかず不快ではない。
- 不登校、非行・・・の子どもには、自分の良い面が周囲の大人に発見されていないという、生育史がある。

佐々木先生は、ここ新潟に縁のある方で、群馬県出身ですが新潟大学医学部を卒業され、川崎医療福祉大学特任教授、ノースカロライナ大学医学部精神科非常勤教授などを歴任された方です。みしま中央こども園でも佐々木先生のご指摘を心にとめて、日々の教育・保育活動に努めていきたいと思っております。